

【艦 砲 射 撃】

昭和 20(1945)年 7 月 14 日、戦艦 3 隻を基幹とする 14 隻のアメリカ機動艦隊により、釜石は本州初の艦砲射撃を受けました。

12時10分から始まった砲撃は14時10分まで続き、この日だけで2,565発もの砲弾が打ち込まれました。

製鉄所を中心に砲撃が集中し、鈴子・只越地区、嬉石・松原地区が大きな被害を受けました。避難した市民の中には砲弾の破片や爆風で死傷する者、防空壕の崩壊で圧死する者が相次ぎ、さらに火災が発生し街は焼野原となりました。



艦砲射撃の様子

(米公文書館資料・福林徹氏提供)

製鉄所も復旧の見通しがつき、焼野原になった町に人々の生活が再建されはじめていた8月9日、釜石に対して2度目の艦砲射撃が実施されました。

アメリカ・イギリス両国の22隻の艦隊によるこの日の砲撃は12時47分から14時45分まで続き、2,781発以上の砲弾が打ち込まれました。

この2度目の艦砲射撃では再び製鉄所が攻撃されたほか、中妻や小川・小佐野の社宅街が被害を受けました。また1回目の艦砲射撃で被害の少なかった大渡・東前近辺が火災により焼失し、多くの住民が犠牲となりました。

これら2回の艦砲射撃により、782人（令和7年度現在）が亡くなっています。



被害を受けた釜石製鉄所のガス清浄装置



焼土化した釜石市本町（現・浜町）

「釜石艦砲戦災誌」（釜石市・昭和 5 1 年発行）より抜粋